

指標設定の考え方

(※令和6年10月の環境審議会でお示した内容)

現行計画の課題

現行計画の指標の設定にあたっては、進捗状況を客観的かつ合理的に評価を実施する観点で、定量的・定性的な34項目の指標を設定したものの、以下の課題が生じていた。

- **施策の一側面しか表せていない(事業レベルの指標が混在している)**  
例「自然からの恵みの持続的利用の促進」⇒「背振少年自然の家利用者数」
- **普遍的な指標になっていない(時代の変化に合わなくなっている)**  
例「PM2.5の見逃し率」⇒基準超過日の発生日数自体が大きく減少
- **外的要因の影響が大きい**  
例「国際環境協力の推進」⇒「視察・研修受入人数」

次期計画の方向性

- 環境基本計画は、環境分野の総合計画として長期的施策の大綱を示すものであるため、**施策全体の進捗を表すことができる包括的な指標や、外的要因による影響を受けづらく、長期的に測定・評価できる指標**を検討・設定する必要がある
- 環境を取り巻く状況は目まぐるしく変化しているため、計画期間中の社会情勢の変化や国内外の動向等にも的確に対応し、**施策の進捗状況や成果を適切に評価・検証していく必要がある**

- **施策全体の進捗状況を長期的に測定・評価できる、各分野を代表する「客観指標(数値目標)」を基本施策ごとに設定するとともに、めざすべきまちづくりが着実に進んでいるか、市民の実感(評価)により進捗を測る「主観指標(市民意識)」を設定し、主観・客観の両面から総合的に計画の進捗管理を図る**

※「主観指標」の設定はWell-beingの実現を目指す国や市、本計画の理念に沿ったもの。なお、福岡市基本計画では市民意識による「主観指標」のみを指標として設定。

- **事業レベルの指標は部門別計画等で管理し、必要に応じて指標や目標値の見直しを行うなど、社会情勢の変化等にも柔軟に対応していく**

指標体系

環境基本計画(例:脱炭素分野)

<施策体系>

基本施策1 カーボンニュートラルを実装したまちづくり

- 1-1 温室効果ガス排出量を減らす
- 1-2 気候変動によるリスクに備える

<指標体系>

【客観指標(各分野を代表する数値目標)】 温室効果ガス排出量

【主観指標(各項に対応)】

- 1-1 市民や企業、行政などが脱炭素に取り組んでいると思う市民の割合
- 1-2 市民や企業、行政などが気候変動に伴う影響に備えていると思う市民の割合

部門別計画等(例:福岡市地球温暖化対策実行計画)

【家庭部門】

- 世帯当たりのエネルギー消費量

【自動車部門】

- 乗用車新車販売台数に占めるガソリン車の割合
- 1日あたりの鉄道バス乗車人員

【業務部門】

- 床面積当たりのエネルギー消費量

【再生可能エネルギー】

- 再生可能エネルギーによる設備導入量
  - 再生可能エネルギーの利用率
- 等

<市民意識調査(予定)>

- ・実施時期 : 令和7年2月~3月
- ・調査対象者: 福岡市内に居住する満18歳以上の市民2,000名(無作為抽出)
- ・回答方法 : 郵送またはインターネット
- ・設問 : 指標案14問

⇒ 調査結果を受けて、初期値・目標値を設定

# 【補足資料】環境基本計画(第四次)における成果指標(案)について

## 次期計画の成果指標一覧

| 節                                   | 項   | 成果指標(案)   |
|-------------------------------------|---|---|
| 【行動変容】<br>環境行動を実践する<br>まちづくり        | 1-1 環境にやさしい行動の輪を広げる<br>1-2 環境に関する学びの輪を広げる       | 1-1 日頃から環境に配慮した暮らしを実践している市民の割合<br>1-2 環境問題の解決には、市民自らが行動することが必要と強く思う市民の割合  |
| 【事業者連携】<br>環境経営を実践する<br>まちづくり       | 2-1 環境にやさしいビジネススタイルを定着させる<br>2-2 環境と経済の好循環を創る   | 2-1 環境に配慮した活動を行う企業が増えていると思う市民の割合<br>2-2 企業が環境に配慮した商品やサービスを提供していると思う市民の割合  |
| 【脱炭素】<br>カーボンニュートラルを<br>実装したまちづくり   | 1-1 温室効果ガス排出量を減らす<br>1-2 気候変動によるリスクに備える         | 【客観指標】 温室効果ガス排出量<br>1-1 市民や企業、行政などが脱炭素に取り組んでいると思う市民の割合<br>1-2 市民や企業、行政などが気候変動に伴う影響に備えていると思う市民の割合  |
| 【循環経済】<br>地球にやさしい<br>循環のまちづくり       | 2-1 ごみの減量と資源化を進める<br>2-2 ごみの適正な処理を進める           | 【客観指標】 ごみ処理量<br>2-1 市民や企業、行政などによるごみの削減やリサイクルの取組みが進んでいると思う市民の割合<br>2-2 ごみや資源物が出しやすく、その収集や処理も適正に行われているまちだと思ふ市民の割合   |
| 【生物多様性】<br>多様性にあふれた<br>自然共生のまちづくり   | 3-1 生物多様性を守り、活かす<br>3-2 水と緑を守り、活かす              | 【客観指標】 絶滅危惧種等の確認種数<br>3-1 生物多様性の意味を理解し、その保全につながる行動をしている市民の割合<br>3-2 豊かな水辺や緑に親しむことができる空間が維持・整備されていると思う市民の割合  |
| 【生活環境】<br>安全で良質な<br>生活環境のまちづくり      | 4-1 安心・安全に暮らせる生活環境を確保する<br>4-2 美しく、住み良い生活環境をつくる | 【客観指標】 大気・騒音・水質の各環境基準達成率<br>(大気(NO2・ベンゼン・PM2.5・ダイオキシン類)、騒音(自動車)・水質(BOD・ダイオキシン類)の7項目)<br>4-1 生活環境(空気、水のきれいさ、静けさ、におい・かおり)の状況が良好だと思ふ市民の割合<br>4-2 まちの景観が保たれ、ごみがない美しいまちづくりが進んでいると思う市民の割合 |
| 【広域連携】<br>九州・アジアとつながる<br>環境協力のまちづくり | 5-1 市域を超えた環境協力を進める<br>5-2 環境技術を活かして国際社会に貢献する    | 【客観指標】 海外からの研修・視察受け入れや海外への技術協力等による国際貢献・協力件数<br>5-1 福岡市と近隣地域とが協力して、自然や生活環境が保たれていると思う市民の割合<br>5-2 福岡市の環境技術※がアジアや世界に貢献し、存在感を高めていると思う市民の割合<br>(※廃棄物管理・上下水道技術など)                         |

# 【補足資料】環境基本計画(第四次)における成果指標(案)について

## 成果指標 新旧対照表

| 第四次環境基本計画<br>(節)                    | 第三次環境基本計画 成果指標 全34指標   | 第四次環境基本計画 成果指標(案) 全19指標  |
|-------------------------------------|--|--|
| 【行動変容】<br>環境行動を実践する<br>まちづくり        | 環境教育・学習人材リスト登録者数   | 1-1 日頃から環境に配慮した暮らしを実践している市民の割合<br>1-2 環境問題の解決には、市民自らが行動することが必要と強く思う市民の割合   |
| 【事業者連携】<br>環境経営を実践する<br>まちづくり       | (成果指標なし)   | 2-1 環境に配慮した活動を行う企業が増えていると思う市民の割合<br>2-2 企業が環境に配慮した商品やサービスを提供していると思う市民の割合   |
| 【脱炭素】<br>カーボンニュートラルを<br>実装したまちづくり   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭部門における1世帯あたりのエネルギー消費量</li> <li>・業務部門における延べ床面積1㎡あたりのエネルギー消費量</li> <li>・再生可能エネルギー設備導入量</li> <li>・1日あたりの鉄道・バス乗車人員</li> <li>・公共交通の便利さへの評価</li> <li>・都心部への自動車の流入台数</li> <li>・都心部における緑被面積</li> </ul>   | <b>【客観指標】 温室効果ガス排出量</b><br>1-1 市民や企業、行政などが脱炭素に取り組んでいると思う市民の割合<br>1-2 市民や企業、行政などが気候変動に伴う影響に備えていると思う市民の割合  |
| 【循環経済】<br>地球にやさしい<br>循環のまちづくり       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ごみ処理量</li> <li>・ごみのリサイクル率</li> <li>・不法投棄処理量</li> </ul>   | <b>【客観指標】 ごみ処理量</b><br>2-1 市民や企業、行政などによるごみの削減やリサイクルの取組みが進んでいると思う市民の割合<br>2-2 ごみや資源物が出しやすく、その収集や処理も適正に行われているまちだと思ふ市民の割合   |
| 【生物多様性】<br>多様性にあふれた<br>自然共生のまちづくり   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・全市域における緑被面積 ・農地面積(農用地区域) ・森林面積</li> <li>・環境基準(博多湾)の達成率 ・環境基準(河川水質)の達成率</li> <li>・カブトガニの卵塊・幼生数</li> <li>・身近な緑への満足度 ・地域の公園の親しみ度</li> <li>・福岡市の農林水産業を守り育てていくべきだと思ふ市民の割合</li> <li>・学校給食への市内産農産物利用割合(野菜)</li> <li>・背振少年自然の家延利用者数</li> <li>・農林業ふれあい施設年間利用者数 ・海づり公園利用者数</li> <li>・生物多様性を理解し、その保全を意識して行動している市民の割合</li> <li>・市民1人あたり水使用量</li> </ul> | <b>【客観指標】 絶滅危惧種等の確認種数</b><br>3-1 生物多様性の意味を理解し、その保全につながる行動をしている市民の割合<br>3-2 豊かな水辺や緑に親しむことができる空間が維持・整備されていると思う市民の割合  |
| 【生活環境】<br>安全で良質な<br>生活環境のまちづくり      | <ul style="list-style-type: none"> <li>・PM2.5の予測精度</li> <li>・環境基準(大気質)の達成率</li> <li>・環境基準(有害大気汚染物質)の達成率</li> <li>・環境基準(自動車騒音)の達成率</li> <li>・環境基準(ダイオキシン類)の達成率</li> <li>・市民のマナーに対する満足度</li> <li>・自転車放置率</li> </ul>  | <b>【客観指標】 大気・騒音・水質の各環境基準達成率</b><br>(大気(NO2・ベンゼン・PM2.5・ダイオキシン類)、騒音(自動車)・水質(BOD・ダイオキシン類)の7項目)<br>4-1 生活環境(空気、水のきれいさ、静けさ、におい・かおり)の状況が良好だと思ふ市民の割合<br>4-2 まちの景観が保たれ、ごみがない美しいまちづくりが進んでいると思う市民の割合 |
| 【広域連携】<br>九州・アジアとつながる<br>環境協力のまちづくり | 視察・研修受入人数  | <b>【客観指標】 海外からの研修・視察受け入れや海外への技術協力等による国際貢献・協力件数</b><br>5-1 福岡市と近隣地域とが協力して、自然や生活環境が保たれていると思う市民の割合<br>5-2 福岡市の環境技術※がアジアや世界に貢献し、存在感を高めていると思う市民の割合<br>(※廃棄物管理・上下水道技術など)                         |